

地域の活動でよみがえった「祖谷」の襖絵からくり舞台



徳島県 三好市

徳善襖絵からくり舞台実行委員会

3 活動の成果や波及効果等

復活した地域の貴重な伝統芸能である襖絵からくりを後世に引き継ぐため、平成 20 年に「徳善襖絵からくり舞台実行委員会」を結成しました。

襖絵からくりの重要性が見直され、活動の輪が地域全体に広がり、市道の清掃活動が行われるようになりました。年間を通じて市道的美観が保たれることにより、からくり舞台を訪れる住民や観光客にも好評を得ています。

これらの活動が認められ、平成 24 年「徳善からくり襖絵」は三好市指定有形民俗文化財に指定されました。数名から始まった襖絵からくりの活動が地域全体へ広がり、次の世代への継承につながっています。



県内外からの見物客で賑わう舞台。



舞台裏で襖を操作する会員。全員で息をピッタリ合わせて巧みに襖を操る。



「徳善からくり襖絵」が三好市の有形民俗文化財の指定を受けたことを示す看板。

所在地

徳島県三好市西祖谷山村徳善

活動主体及び連絡先

徳善襖絵からくり舞台実行委員会 (0883-84-1455)

対象となる社会資本

市道 徳善線、市道 西岡徳善線
※管理者 三好市建設部管理課

喜びの声



受賞者

徳善襖絵からくり舞台実行委員会
会長 梅本 定久

コメント

この度は、このような名誉ある賞をいただき身に余る思いです。この受賞を励みにさらに襖絵からくりを広めたいと考えております。秘境に伝わるこの襖絵からくりを体験しに、ぜひ皆さんも祖谷を訪れてみてください。

活動の内容

- ・ 襖絵からくりの公演（設営から操作）
- ・ 市道の清掃活動、案内看板の設置
- ・ 山の麓から舞台会場まで歩いて登る古道の修復

活動の経緯

昭和 25 年頃 襖絵からくりが途絶える
平成 16 年 襖絵と舞台部材を発見
平成 19 年 半世紀ぶりの復活公演
平成 20 年 実行委員会を結成
以後、地域内外を巻き込みながら活動を継続中

1 社会資本の概要

徳島県西部、日本最大秘境の祖谷地方に伝わる伝統芸能である「襖絵からくり」は、五穀豊穡を願うとともに地域の人々の娯楽として明治時代から昭和初期まで盛んに上演されていました。

この襖絵からくりが上演される舞台へのアクセス

道路となる「市道 徳善線」と「市道 西岡徳善線」は、地域住民の暮らしを支えているだけではなく、「襖絵の里の道」として親しまれており、昭和初期に途絶えてしまった襖絵からくりの復活とこれまでの継続を支えています。



来訪者を歓迎する看板や道案内の看板が手づくりで設置されている。



清掃活動や樹木の伐採が継続的に行われている。

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

かつて盛んに上演されていた襖絵からくりは、高度成長期の人口流出等により途絶えてしまい、祖谷の集落活動や地域交流の減少に繋がりました。

復活のきっかけとなったのは、平成 16 年に地域の有志により襖絵や舞台の部材が発見されたことです。地域ではこれを機に復活公演をしようという気運が高まりました。

自分たちの手で破損した襖絵の修復作業や地元の

山から木材を搬出し加工して組み立て式の舞台を復元。また、先人の公演経験者から指導を受け何度も練習を重ねました。

平成 19 年、三好市の姉妹都市である米国ダルズ市からの訪問団が来訪することになり、これに合わせて襖絵からくりを初披露しました。半世紀ぶりに復活した舞台には地域内外から多くの来場者があり、大成功を収めることができました。



襖絵からくり舞台の制作状況。部材の加工から組み立てまで行った。



襖絵の修復作業。長年放置されていたため、保存状態が悪く修復には苦労した。



ダルズ市からの訪問団との交流。半世紀ぶりに襖絵からくりが復活。

